

配慮が必要な方の特徴

様々な特性を持つ参加者の特徴や対応時の配慮事項などは、下記のとおりです。
ただし、これらの特徴の表れ方は人によって異なりますので、この記載にとらわれず、
困ったときにはコミュニケーションをとって、お互いのできることを一緒に考えましょう。

視覚障害者

日常生活や就労の場で不自由を感じるなど、視界が見えづらい、もしくは全く見えない状態のことを視覚障害といいます。視覚障害は、全盲（全く見えない）、ロービジョン（弱視：眼鏡等を使っても十分な視力を得られない）、視野狭窄（見える範囲が狭い）など、見え方は様々です。

●視覚障害者は、困っていても自ら配慮等を求めることが難しいことがあります。

◇視覚障害者が戸惑っているのを見かけたときは、まず、声をかけ、そして何らかの配慮が必要かどうか確認することが望まれます。

◇コミュニケーションをとる際、「そこ」「ここ」「あそこ」という言い方は、わかりにくいです。場所や方向を伝えたいときは、「右側」「左側」等の言い方をするほか、時計の文字盤にたとえて、どこに何があるかを伝える等の方法があります。

例：右ななめ前にトイレがある場合は、「●●さんから見て2時の方向にトイレがあります。」

聴覚障害者

音が聞こえづらい、もしくは聞こえない状態を聴覚障害といいます。一口に聴覚障害といっても、補聴器がなくてもなんとか音が聞き取れる人、補聴器をつければ会話も聞き取れる人、両耳とも聞こえない人、片耳は聞こえて片耳が聞こえない人など、さまざまな聞こえ方があります。

●聴覚障害者は、その原因によって言語障害を伴う場合があります。

●手話ができる人や筆談をする人、もしくはメールでのやりとりの方が早い人など、コミュニケーションの方法は人によって様々です。音声での会話、手話、筆談、口話など様々な方法があり、多くの人はいくつかの方法を相手や場面に応じて組み合わせて使っています。

◇まず、どのような方法でコミュニケーションをとればよいか本人に確認することが望まれます。

肢体不自由者

手や指を使うことが難しい上肢の機能障害、膝や足を使うことが難しい下肢の機能障害、身体の姿勢を維持することが難しい体幹の機能障害など、様々な身体状況が考えられます。

●杖をついていたり、車いすに乗っていると、階段や少しの段差、通路幅やドア幅が狭い場所の通行が困難です。

●口や舌の動きが麻痺していると、言葉を使って自身の思いを十分に伝えることができないことがあります。

●指・手・腕に障害がある人は、文字を書いたり、お金の扱いなど、細かな手先の動作に大変苦勞します。

◇社会の中で適切な配慮がなされることによって、楽に外出ができるようになります。

内部障害者

内部障害とは、心臓機能、腎臓機能、呼吸器機能、膀胱・直腸機能、小腸機能障害のほか、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)による免疫機能障害など、身体内部の機能の障害のことを指します。それぞれ必要となる配慮は異なってきます。

●内部障害のある人は、体力がなく疲れやすい状態にあります。長時間立ってもらうことがないよう、着席を勧めるなどの配慮をします。

◇外見からはわかりにくい場合もあるため、周囲の配慮が必要です。

◇オストメイト対応の多機能トイレや、休憩スペースなどを、わかりやすく案内表示しましょう。

知的障害者

知的障害とは、知的な能力に障害があり、日常生活に支障が生じている状態です。苦手な分野や障害の状態は人によって違い、それぞれの状態に応じた支援が必要です。

●話の内容を理解できなかったり、自分の考えや気持ちを表現することが難しく、コミュニケーションを上手にとれないことがあります。

●判断したり、見通しをもって考えることが苦手な人もいます。

●読み書きや計算が苦手な人もいます。

●困ったことが起きても自ら助けを求めることができない人もいます。

◇話しかけるときには、本人に穏やかな口調で話しかけます。話す際には、「わかりやすく」「ゆっくりと」「簡潔に」「具体的なことばで」話します。また、質問は一つ一つ丁寧に、「はい」「いいえ」で答えやすいように伝えます。

精神障害者・発達障害者

精神障害とは、統合失調症、気分障害(うつ病など)などの様々な精神疾患により、日常生活や社会生活のしづらさを抱えている状態です。適切な治療・服薬と周囲の配慮があれば、症状をコントロールできるため、地域で安定した生活を送っている人もたくさんいます。

発達障害とは、自閉症、アスペルガー症候群等の広汎性発達障害(PDD)、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)など、脳機能の障害です。

●ストレスに弱く、緊張したり、疲れやすかったりします。人と対面することや対人関係、コミュニケーションが苦手な人もいます。

●警戒心が強かったり、自分に関係ないことでも自分に関係づけて考えたりすることがあります。

●こだわりが強く、突発的な出来事や予定の変更への対応が苦手な人もいます。

●相手の話が理解できない、困っていることをうまく伝えられない人もいます。

●興味のあるものをすぐに触ったり、手に取ったりせずにはいられない人がいます。

◇不安を感じることをないように、できるだけ穏やかな対応をすることが望まれます。話す際には、次々と説明するのではなく、一つずつゆっくりと話しましょう。また、「少し」「しばらく」など曖昧な表現ではなく、具体的に時間や場所を伝えましょう。「〇〇してはだめ」ではなく、「〇〇しましょう」と肯定的な言葉で話しかけることが望まれます。

高齢者

65歳以上の高齢者といわれる人は元気で、生活上、特別な配慮を必要としない場合もあります。しかし、加齢に従い、歩行や知覚、認知などの点で機能低下がみられることから、外出等において、身体的、心理的負担が増す傾向にあります。

- 聴力が低下して言葉が聞き取りにくくなったり、早い会話についていけなくなったりするため、必要なことを的確に、わかりやすい言葉を使って丁寧に話します。
- 足腰の機能の低下などにより、歩行時のバランスがとりにくい状態になっています。移動の際にはさりげなく見守り、日常生活の中で転倒のきっかけになりそうなものはあらかじめ除去しておくように配慮しましょう。
- 長い距離の連続歩行や階段などの移動が困難になることもあります。
- 認知症になった場合、日常生活に支障が生じる程度にまで記憶などの認知機能が低下することがあります。

◇足腰の機能の低下、視力・聴力等の低下、認知症による記憶障害・理解判断力の低下等、様々な状態があるため、一人ひとりの状態に応じた配慮が望まれます。

妊婦・乳幼児連れの人

妊婦・乳幼児連れの外出は、食事や日程面で配慮が必要となってきます。また、体調が変わりやすく、健康に留意する必要があります。

- 妊娠中の人は、下り階段など足下が見えにくいことにより歩行が不安定で、長時間立つことが困難です。
- 妊娠中の人は、不意に気分が悪くなったり、疲れやすいことがあります。
- 妊娠中の人は、初期の場合、外見からは気がつきにくいです。
- ベビーカーの使用や乳幼児を抱きかかえているなどから、階段、段差などの移動が困難な場合もあります。
- オムツ交換や授乳場所が必要です。

◇妊婦、乳幼児連れ、ベビーカー使用者等への理解をお願いします。また、授乳室やオムツ替えシートの設置などできる範囲で御協力をお願いします。

外国人

外国人は、言語や慣習に不慣れなことから、コミュニケーションをとる上で配慮が必要です。日本語だけの表示では、外国人にとってわかりにくいものです。

◇多言語表記の他、難しい日本語表現は説明文を付ける、外国人にもわかりやすい日本語を使う、ピクトグラムや写真などわかりやすい情報提供を行うなどの配慮が必要です。

